

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-309422

(P2002-309422A)

(43) 公開日 平成14年10月23日 (2002. 10. 23)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

A 4 1 D 23/00

識別記号

F I

A 4 1 D 23/00

テマコード\* (参考)

Z

審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2001-153218 (P2001-153218)

(22) 出願日 平成13年4月15日 (2001. 4. 15)

(71) 出願人 501202738

勝部 淳子

千葉県船橋市小室町901番地 C-5号棟  
201号室

(72) 発明者 勝部 淳子

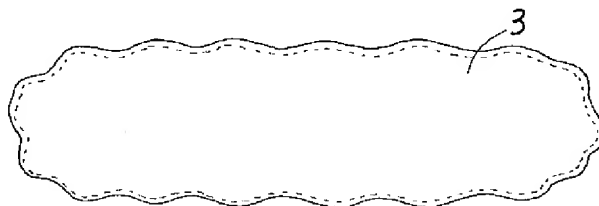
千葉県船橋市小室町901番地 C-5号棟  
201号室

(54) 【発明の名称】 形状安定スカーフ並びにスカーフ製造方法

(57) 【要約】

【課題】 形状安定スカーフ並びにスカーフ製造方法

【解決手段】 本品はスカーフの周縁に変形可能な線材を施し、スカーフ生地に張りを持たせ、形を安定した状態で使用すること特徴とする。使用後は、元に戻し、何度も形を変えて使用することができる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】スカーフに必要な任意形状にスカーフ生地を裁断する生地裁断工程とスカーフ周縁部を線材接合処理に必要な間隔分を残して線材をかがる工程と、線材をかがり部内に生地が張るまで押し込む生地張り工程と、生地張り工程後、線材の両端を接合した上で、共布を巻きつけてかがりつけた後、最終かがり工程とによりなるスカーフ製造方法。

【請求項 2】スカーフの周縁に変形可能な線材を設けた形状安定スカーフ

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【特許の属する技術分野】本特許は、スカーフの周縁に変形可能な線材をまつりつけたり、かがりつけて任意の一定形状を作り、かつ安定した状態で使用できるスカーフに関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】従来のスカーフはシルク等の薄い素材をそのまま使用している。布にワイヤーを施してあるものには、リボンがあるが、アクセサリーの範囲にすぎない。また、帽子のブリム周囲に線材を施してあるが、形づくられているものに線材が取り付けられているにすぎない。

## 【0003】

【特許が解決しようとする課題】従来のスカーフは布のまま、使用する場合、外れたり、飛ばされないように首に巻いた後、コートで上から押さえたり、結んだり、留め具を用いている。好みに形づくることは難しい。また、時間の経過とともに、変形してしまう。この形状安定スカーフは、周縁に変形可能な線材を施しているので、結んだり、留め具を使用しなくても、外れたり、飛ばされることがない。しかも、好みの形に、自由に形づくれば形が持続することができる。大きさを変えることにより、ケープ、タンクトップ、帽子、ターバン、ベルトなどの服飾品、コサージュなどのアクセサリー、展示用の装飾品等として広く使用することができるものである。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】従来のスカーフは使用するときには、巻きつけたり、結んで使用している。この特許は、スカーフの周縁に変形可能な線材を施し、スカーフ生地に張りを保たせてあるので、使用するとき、自由自在に形づくれば、生地の伸張性の作用を利用しているので、自然なウェーブを醸し出し、形が持続するものである。

## 【0005】

【特許の実施の形態】形状安定スカーフは、大きさをえたり、使用する布の材質を変えることにより、ケープ、タンクトップ、帽子、ターバン、ベルト等の服飾品、コサージュ等のアクセサリー、展示用の装飾品等に

広く使用することができる。また、布の代わりに、不織布、紙、ビニール、ラップ材等にも応用できる。製造工程において、生地の伸張性を利用し、布に張りを持たせているので、自然なウェーブを醸し出すことができる。以下添付図面に従って製造工程と実施例を説明する。

【図 1】においてスカーフ生地を裁断した平面図である。

【図 2】は裁断したスカーフ生地の周縁部に変形可能な線材を、線材の接合処理に必要な間隔分を残してかがりつけたものである。

【図 3】は線材をかがり部内に生地が張るまで押し込む工程を示したものである。

【図 4】はスカーフの生地が張る状態にした後、線材の必要な長さを決め、さらに接合に必要な長さを決めて線材を切断した平面図である。

【図 5】線材の接合部分を折り曲げた後、接続したものである。

【図 6】は接合した部分にスカーフの共布を巻きつけ、かがったものである。

【図 7】は形状安定スカーフの本体である。

【図 8】は本体の実施例である。

【図 9】は本体をケープとして形づくった実施例である。

【図 10】は本体をタンクトップとして形づくった実施例である。

【図 11】は本体を帽子に形づくった実施例である。

【図 12】本体をターバンとして形づくった実施例である。

【考案の効果】上述のように、本特許の形状安定スカーフはスカーフの周縁に変形可能な線材をを施すことは、体型に合わせて形づくれば、結んだり、留め具を使用する必要なく、体型に合わせて、使用できる。さらに、大きさを変えることにより、ケープ、タンクトップ、帽子、ターバン、ベルト等の服飾品、コサージュ等のアクセサリー、展示用の装飾品等に広く使用することができる。

## 【図面の簡単な説明】

【図 1】スカーフ生地を裁断した平面図である。

【図 2】スカーフ生地の周縁に線材をかがり工程の全体図である。

【図 3】製造工程を示す全体図である。

【図 4】製造工程を示す全体図である。

【図 5】製造工程を示す部分図である。

【図 6】製造工程を示す部分図である。

【図 7】形状安定スカーフの本体の全体図である。

【図 8】形状安定スカーフの一実施例である。

【図 9】ケープの一実施例を示す全体図である。

【図 10】タンクトップの一実施例を示す全体図である。

【図 11】帽子の一実施例を示す全体図である。

【図 12】タンクトップの 1 実施例を示す全体図であ

3

4

る。

【符号の説明】

1 スカーフ生地

2 変形可能な線材

2a～c 接合部分

\* 3 形状安定スカーフの本体

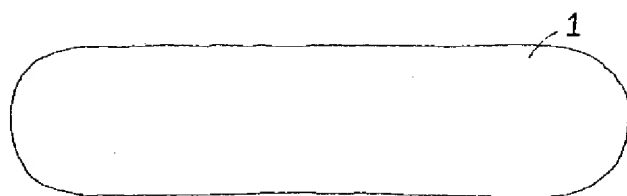
4 ケープ

5 タンクトップ

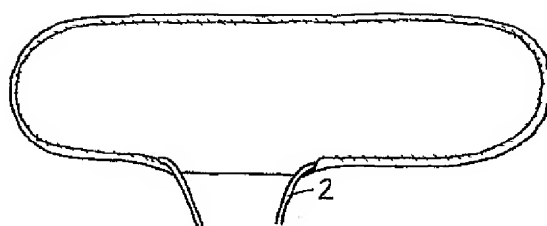
6 帽子

\* 7 タンクトップ

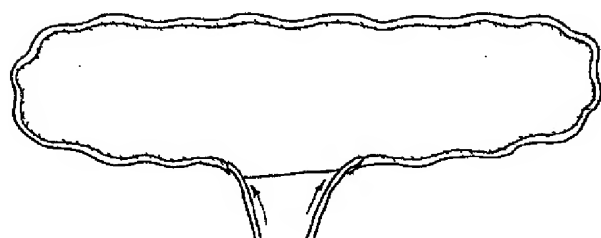
【図1】



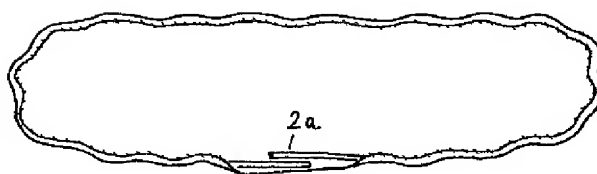
【図2】



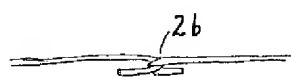
【図3】



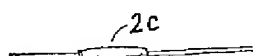
【図4】



【図5】



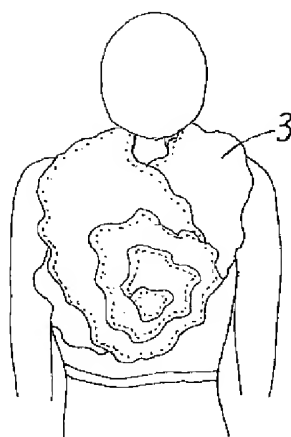
【図6】



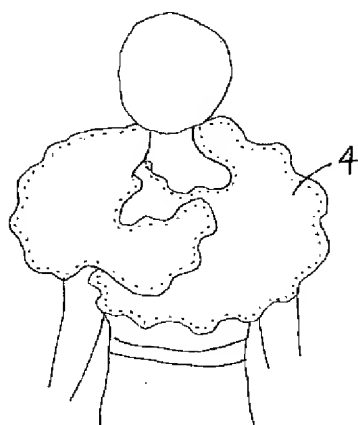
【図7】



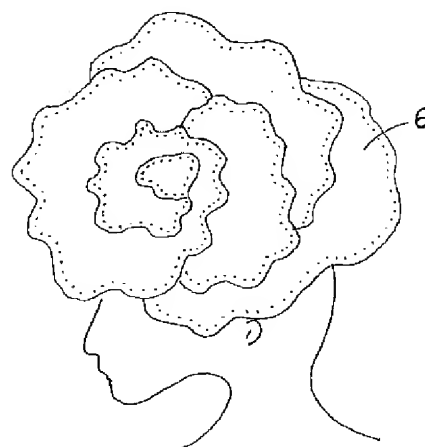
【図8】



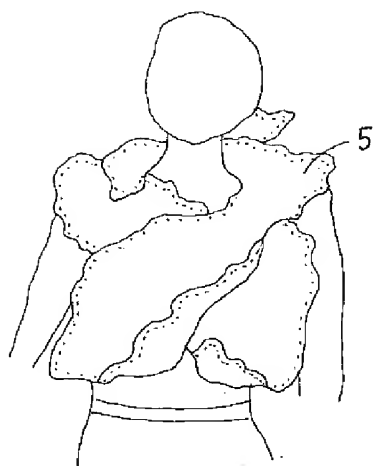
【図9】



【図11】



【図10】



【図12】

